

# こすもスマイル



62号 発行：小林市立病院 地域医療連携室 令和5年6月

～認定看護師のあいさつ～



雨に映える美しい紫陽花に心安らぐ季節となりました。降り続く雨も、草木にとっては恵みの雨。雨にうたれた霧島連山の緑の眩しさが目に映ります。梅雨が明けたら、運動不足解消も兼ねて、登山に行きたいと思っています。

今回は、救急看護認定看護師についてご紹介します。

まず、認定看護師になるには、看護師として5年以上の実践経験を持ち、日本看護協会が定める600時間以上の認定看護師教育を修め、認定看護師認定審査に合格することで取得できる資格です。認定分野ごとの専門性を発揮しながら、認定看護師の3つの役割「実践」「指導」「相談」を果たして、看護の質の向上に努めます。

私は、2015年に救急看護認定看護師の資格を取得しました。病気やケガは、時間、場所、年齢に関係なく突然発症します。救急看護は、そのような患者さんやご家族に対して、医療活動やここのケアを提供することです。

私は、2015年に救急看護認定看護師の資格を取得しました。病気やケガは、時間、場所、年齢に関係なく突然発症します。救急看護は、そのような患者さんやご家族に対して、医療活動やここのケアを提供することです。

## 【実践】

緊急性や重症度が高い心筋梗塞、脳卒中、外傷などは救命だけでなく、その後の社会復帰を目指した看護の提供が求められます。当院は、西諸医療圏内で唯一病院敷地内にヘリポートを有し、ドクターヘリの一次受け入れを含めた二次救急を行っています。予測性、即応性を持った「実践」を行い、心身の障害を最小限にできるように努めています。

## 【指導】

「急変時の対応」「救急看護の基礎」「災害看護」などのテーマで、院内や地域の看護師を対象とした研修、看護学校の授業などの講師を行っています。

## 【相談】

すべての看護師が、救急対応が得意というわけではありません。医師と共に救急の振り返りを行い、知識の向上に努めています。

小林市立病院 救急看護認定看護師 手術室看護師長 福永 幸枝

## 【理念】

「安心、安全で信頼される病院を目指します」

## 【基本方針】

- ◎ 西諸の中核病院として、地域の医療機関と連携し、高度な医療を提供します
- ◎ 職員一丸となって、迅速な対応とチーム医療で、安全な医療を提供します
- ◎ 誠実かつ真摯（しんし）な姿勢で日々研鑽（けんさん）に努め、信頼される質の高い医療を提供します
- ◎ 自治体病院として、平等で心が通い合い、安心できる快適な療養環境を提供します
- ◎ 患者様と家族の満足を追求し、プライバシーの保護をはじめ患者様の権利を尊重します



## 消化器外科・腫瘍外科紹介



当院消化器外科・腫瘍外科は、令和5年4月現在、坪内事業管理者、徳田院長、島名、泊医師の計4人体制で診療を行っています。また、鹿児島大学、宮崎大学、県立病院から多くの研修医の先生が交代で外科研修に来られお手伝い頂いています。年間200件の手術に加え、癌化学療法、内視鏡検査、外来診療と引き続き多忙な業務に追われる日々です。

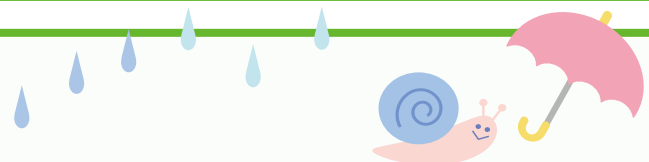
手術は胃癌、大腸癌等の悪性腫瘍手術を主に、胆嚢摘出術、ヘルニア等の良性疾患、腹膜炎等の緊急手術を行っています。また、患者さんの負担を減らす腹腔鏡手術にも積極的に取り組んでいます。以前は宮崎市内の病院に依頼していた総胆管結石や癌による閉塞性黄疸に対する内視鏡治療も、非常勤の消化器内科の先生の協力を頂き件数も増えてきました。

依然として内科医師不在のため、肺炎等の呼吸器疾患、心疾患、その他救急疾患にも追われますが、4月より宮崎大学救急科からの常勤医派遣が二人体制になり、少しずつ救急体制が改善されつつあります。当科に限らず病院全体の常勤医の高齢化が進む中、この先当院が西諸医療圏の中核病院としての役割を担っていくためには、どうしても若い先生の力が必要です。現在の診療レベルの維持向上を図りつつ、若い先生にも魅力ある環境づくりも求められています。

手術のため救急患者の受け入れをお断りするなど、市民の皆さんや近隣の先生方にご迷惑をおかけすることも多々あり、大変申し訳なく思っております。現在の状況をご理解頂き、今後ともご協力の程改めてよろしくお願い致します。

消化器外科・腫瘍外科科長 島名 昭彦

## 4階東病棟紹介



地域包括ケア病棟は、急性期治療を終え病状が安定し、在宅や施設への退院を目指す方が入院しています。また、在宅介護・医療を受けている方が、ご家族や介護者の休養を目的として短期入院(レスパイト入院)する事もあります。私達は患者さんの在宅復帰に向け、その人らしい生活をイメージしながら日々のケアを行っています。退院に向けてご家族と連携していくことも重要な要素となります。ご家族の不安を少しでも取り除けるよう地域の多職種と一丸となり、社会福祉や介護サービスなど生活環境を整え退院支援をしています。

当院は、地域の2つの訪問看護ステーションと連携し、当院を退院された患者さんの自宅へ伺う訪問診療を行っています。訪問診療は、患者さんの自宅へ当院の医師、看護師が訪問しますので、患者さんは住み慣れた自宅で診療を受けることができます。訪問診療を受けると、患者さんや介護者は通院による負担がなくなります。そして、コロナ禍で入院中は厳しい面会制限があるため家族に会えない状況ですが、在宅療養では家族と過ごす事が出来ます。

これからも患者さんが「その人らしく過ごす事ができる」よう多職種で協働し、支援していきます。

4階東病棟主任看護師 緩和ケア認定看護師 瀬口 里美

# 新規採用者紹介

令和5年度の新規採用者をご紹介します。  
よろしくお願いいたします。

常勤医師  
整形外科

いわさ かずま  
岩佐 一真

4月から着任しました岩佐と申します。高鍋町出身でラグビー、バイク、お酒が大好きです。  
西諸地域の医療に貢献できるよう頑張ります。  
いつでも外来に来てください。

非常勤医師  
糖尿病・  
内分泌内科

とうぼう たくや  
當房 卓也

4月より糖尿病・内分泌内科を担当させていただきます當房卓也と申します。  
地域の皆様の力になれる様、精一杯頑張らせてもらいますのでよろしくお願いいたします。

薬剤師

てらその あやか  
寺園 綾華

小林市立病院の職員として勤務させて頂く事になりました。  
地域の皆様に安心安全な医療を提供するために日々研鑽に努めます。  
どうぞよろしくお願いいたします。

看護師

うわとこ ゆきひろ  
上床 幸弘

4月から3階病棟に配属になりました。  
患者さんにとってより良い看護が提供できるよう、日々研鑽を重ねてまいります。まだ至らない点もあると思いますが、どうぞよろしくお願いいたします。

看護師

さこ みなみ  
迫 みなみ

何事も楽しく笑顔でやりたいなと思っています。仕事以外の時間は元気づげる息子と激しく楽しく遊んでいます。  
10年ほど小林を離れていたため、これから少しずつ美味しいお店と行きつけにする美容室を探す予定です。

看護師

さくらだ はるか  
桜田 春香

4月から5階病棟に配属になりました。  
患者さんに信頼されるような看護師を目指していきます。よろしくお願いいたします。

看護師

さかもと まさみつ  
坂本 方光

今年、小林市に引っ越してきました。豊かな自然と人の温かさに触れて感動しました。  
地域の皆様に貢献できるよう精一杯頑張りますのでよろしくお願いいたします。



## 看護師

さかもとるな  
坂本 瑠奈

私は、小林市で生まれ育ちました。昨年まで、県外で看護師として従事してきました。今年、故郷である小林市で地域の皆様へ寄り添う看護を提供したいと考え帰郷しました。皆様のお力になれるよう精一杯頑張ります。

## 看護師

もりかわみさき  
森川 美咲

地元である小林市に戻り、小林市立病院で勤務することになりました。地域の方々に寄り添い、安心して医療を受けて頂けるよう日々努力してまいります。

## 看護師

やまなみ たつや  
山波 竜也

3階病棟配属になりました。明るく元気良く仕事をしたいと思います。趣味は、ジョギング、気になったマンガを一気読みする事です。気軽にお声かけください。

## 新規採用者研修を実施しました

令和5年度は7名の看護師が、看護部の仲間として新たに入職しました。4月4日より看護部教育委員会主催の新規採用者研修プログラムに沿って、6日間の研修を実施しました。小林市内の病院に就職した新人看護師3名も、当院の新規採用者研修に参加されました。

毎年、この研修では看護に必要な知識や技術、ケアの方法、急変時の対応や\*BLS研修、医療機器の取り扱いなど様々な分野についての講義を、院内の認定看護師や師長、副師長、主任看護師を中心に委員会メンバーやコメディカルスタッフの協力を得て開催しています。当院に入職した7名の看護師も初心に戻り、また、3名の新人看護師も初めての経験で、それぞれが緊張しながら受講していました。

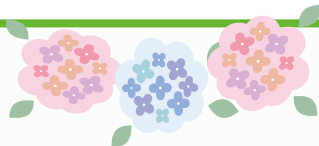
研修終了後は、配属された部署で先輩看護師達と協力しながら、患者さんに看護サービスを提供していくことになります。この研修で学んだことを活かして、看護の現場で活躍してもらいたいと願っています。

\*BLS=Basic Life Support 心肺停止や呼吸停止に対する一次救命処置



小林市立病院看護部教育委員会 森川裕子

# 放射線室紹介



放射線室は4名の診療放射線技師が従事しており、多種多様の画像診断装置を駆使し、各診療科と密に連携を取りつつ、診断・治療に用いる画像の提供や、各種放射線機器等の保守管理及び放射線被ばく防止に関する業務を行っています。

急性期病院として必要不可欠な検査機器を導入し、最新の検査技術で安全を尽くした医療の提供に努めており、患者さんに安心して検査を受けて頂けるように最小限の放射線で最大限の情報を提供できるように取り組んでいます。

また、近年進歩し続ける技術や多様化する専門性に対応した医療を提供できるように日々研鑽し、各種専門認定技師の育成にも力を入れています。

## ◇◇認定資格◇◇

- ・ 検診マンモグラフィー撮影認定技師 3名
- ・ X線 CT 認定技師 2名
- ・ 超音波検査士 3名
- ・ 第一種放射線取扱主任者 1名
- ・ 救急撮影認定技師 1名
- ・ ICLS 認定インストラクター 1名
- ・ 臨床実習指導教員 1名



## ◇◇高額医療機器の共同利用について◇◇

地域の医療機関からの検査依頼に迅速に対応できる体制を整えています。

CT・MRI・マンモグラフィー・骨密度検査依頼は地域連携室までお問い合わせください。

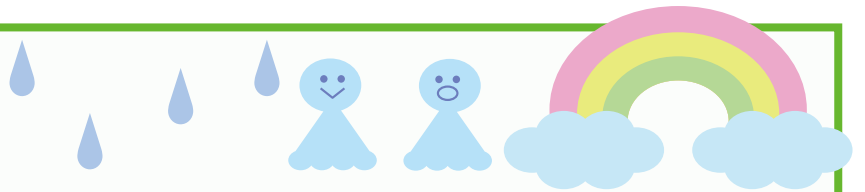
放射線室長 原田 教信

西諸華道連盟の皆様から、すばらしいお花をいただきました。





# 臨床工学室紹介



当院の臨床工学室は、医療機器全般にわたって操作・保守点検・管理を行い、チーム医療の一員として患者さんへより良い医療・安全な医療を提供できるよう励んでおります。

最近では、睡眠時無呼吸症候群（SAS：Sleep Apnea Syndrome）の簡易スクリーニング検査等に多く携わる傾向にあります。

SASとは、睡眠中に無呼吸が1時間に5回以上、または、7時間に30回以上繰り返される病気で、睡眠中に体が休めないため日中に激しい眠気が出現し、仕事や運転に支障をきたします。

SAS簡易スクリーニング検査にも使用され、新型コロナウイルス感染症対応でお持ちの方もいる医療機器パルスオキシメータですが、血液を抜くなど患者に負担をかけることなく連続的に動脈血の酸素化状態を簡単に確実に測定できる医療機器です。



血圧計、心電計などの医療機器はヨーロッパで発明されましたが、パルスオキシメータは日本で発明、商品化された医療機器です。

そのほかの用途として、「疾病の重症度の判定」・「在宅酸素療法の適応酸素処方の決定、指導」・「嚥下障害のスクリーニング」・「慢性呼吸不全患者に対する非侵襲的換気療法の導入」など様々な目的で使用されています。

当院臨床工学室でも医療機器を通して、より安全に患者さんのニーズに応えられるように努めてまいります。

臨床工学室長 村田 淳一

## スタッフのひとこと

6月と言えば衣替えの時期ですね。皆さんは、もう済ませましたか？衣替えは、新しい季節の訪れを感じるいい機会になります。天気予報を見てみると、梅雨入りした地域が多くなってきたような気がします。

衣替えをして気持ちを新たに、そして梅雨のじめじめを吹き飛ばすくらい育児共々、笑顔で頑張っていきたいと思います。



医師事務作業補助者 橋本 美彩子

連絡先

小林市立病院 地域医療連携室

TEL 0984-23-8225（直通）

FAX 0984-23-8226

Mail k\_hosp4@city.kobayashi.lg.jp